



# CITY & LIFE

都市のしくみと暮らし

No. 44 Summer 1997

特集 都市と学校

「生涯学習」の場所として、また「地域」のコミュニケーション・センターとして、「学校」を積極的に外へ開放し、活用しようという動きが活発化してきた。少子化に伴う児童数の減少、高齢化社会への移行、教育制度の画一化・硬直化からの脱皮、情報化社会への対応といった教育を取りまく環境の変化が「学校」を開いていく。とりわけ都市圏においては、公共施設の有効利用という観点からも「学校」の開放、複合化への関心は高い。教育の場所から地域の拠点としての「学校」へ。都市との関わりから「学校」の将来像を探る。



# Contents

No. **44** Summer 1997

<b>少子化時代の新しい学校</b> 葉養正明	2
<b>ルポ 都市施設としての学校</b> 取材・文 小原誠之 千葉市立打瀬小学校／千代田区立昌平童夢館／文京区立昭和小学校／台東区立上野小学校／ちよだパークサイドフラザ／杉並区立杉並第十小学校	8
<b>新しい学校はイギリスから始まった。</b> 取材・文 渡部千春 クレストウッドスクール／ビクトリアコミュニティーセンター／ジャノグリーCTC	21
<b>「学校」は地域の拠点になりうるか…複合型学校の実態調査から</b> 構成・文 渡辺裕之	32
<b>ルポ まちづくり学習のすすめ</b> 構成・文 田井中麻都佳	36
<b>戦後都市論の系譜学・4 江戸論としての東京論</b> なつめひろみ	44
<b>INFORMATION</b>	48
<b>バックナンバーのお知らせ</b>	49